

赤穂市農業委員会委員候補者(応募)の状況

番号	氏名	年齢	性別	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者等の該当	応募の理由又は動機	農地利用最適化推進委員への応募
1	宮脇 信一郎	49	男	農業	JA兵庫西出資法人(株グリーンひょうご西(14年間勤務) Sunny&Grass代表(令和元年～) 兵庫県稲作経営者会 副会長 JA兵庫西青壮年部 会長 上郡土地利用型農業研究会 副会長 現赤穂市農業委員	耕作面積70ha 水稲、小麦、白大豆、 キャベツ、玉ねぎ等 農業従事日数280日	該当	農業委員を2期務めさせていただき、赤穂市における農地の状況を把握できました。その中で、少子高齢化、担い手不足が加速していく中、次世代に農地利用を促していく事に貢献したいと思い再度応募しました。	無
2	井上 毅	72	男	農業	元赤穂市職員 現赤穂市農業委員	耕作面積10a みかん 農業従事日数200日	非該当	引き続き農地保全等に取り組みたい。	無
3	高田 徳幸	69	男	会社員 (非常勤)	元赤穂市職員(農村総合整備担当係長、農林水産課長 外) 現赤穂市農業委員 その他 技術士(農業部門)	無	非該当	<p>農業委員会は、農地に関する事務を公平かつ中立的に実施する市町村から独立した行政委員会です。その役割は、農業生産力の増進と農業経営の合理化を図り、農地利用の最適化等、農業の健全な発展に寄与することです。</p> <p>高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加といった地域農業の課題は山積しています。これらの課題を解決するため、改正農業経営基盤強化促進法に基づき、将来の農地利用の姿を明確にする「地域計画」が策定されました。</p> <p>「地域計画」は一度策定したら終わりではなく、毎年PDCAサイクルを通じてブラッシュアップしていくことが重要です。</p> <p>農業委員会は、地域の農業を持続させるために、「地域計画」の着実な実施と更新において重要な役割を担います。特に、10年後の農地利用の姿を示す「目標地図」実現に向けた調整においては、中心的な役割を果たすこととなります。</p> <p>私は非農家ですが、赤穂市職員として、ほ場整備事業を中心とした農業基盤整備事業に約20年携わってきました。その結果として市内の農業や地域の実情に接することになりました。</p> <p>実務経験を活かし、専門的応用能力を必要とする計画・設計・評価等、指導的業務に携わる農業部門の「技術士」資格を取得することも出来ました。</p> <p>赤穂市内の農地利用の最適化を始め「地域計画」PDCAサイクルにおいて、アドバイザー的活動をさせていただきたく応募いたしました。</p>	無